

神教恩の感謝の誠をもって 大和開教祭

大和の光

5月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 代 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円

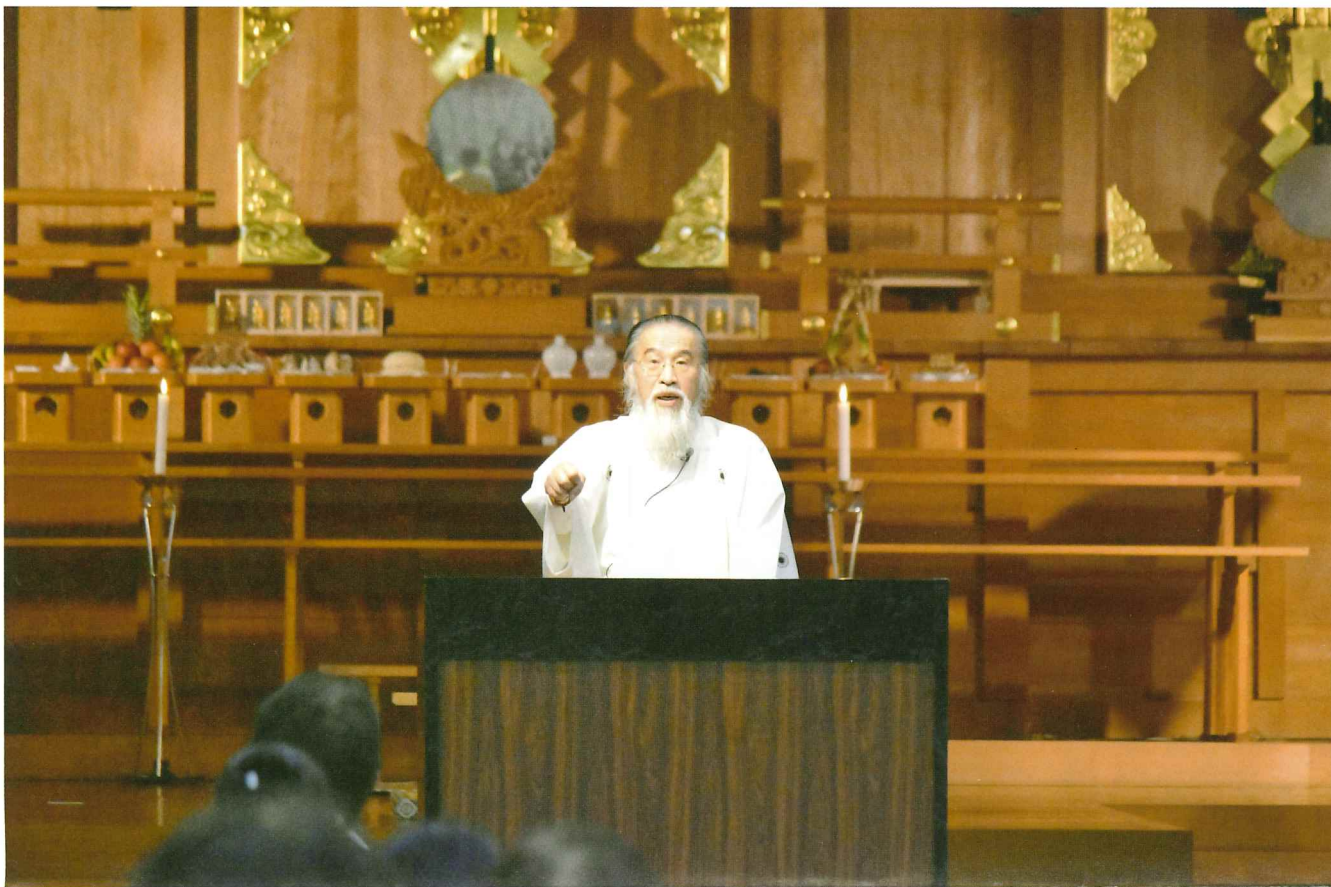


神紋

八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

大和の言霊

信仰は六段階まで、
誰でもやれる。
しかし、七段階、
八段階になると
迷いが生じる。
(大和神典第五之一九五言)



四月一日午前五時からの月始祭
後九時より、第三回特別講習会の
第一日目を開講す。今回は教師等
の学ぶ姿勢を少しく鍛えるべくの
意もありての講習会とした。一日
目は四時間の通し、第二日目は四
時間半の通し、第三日も四時間
の通しにて教師等の姿を観察す。
これまでとは違う姿を観た。これ
までのように首をうなだれていた
り、欠伸したり、モゾモゾしたり
の教師は一人もいなかった。長時
間に亘り実にしつかりとしていた
不思議をみた。心次第を観るもの
であった。

四月十日、神変神社例祭が教務
部長の畠山真由美教師の齋主にて
斎行された。神変御下駄祈念の神
業は品川弓教師、火祭祈禱は熊川
知長教師が奉仕す。大前には信奉
者の皆が心を込めし造り花の桜三
五〇本が、左右二対の萱束に奉
献され美しく彩られた。大幟旗も
天空に翻りその威を揮するもので
あった。

祭典後、十時半より祈禱殿にて
開教祭が熊川教師齋主のもと斎行
された。次に式典に入り、五人の
方に教師階位證の授与、次に辞令
責任役員の任命式をお仕えさせて
頂いた。

十一時十五分よりは、「我が奇
しびなる信仰の奇蹟」と題して講
演をさせて頂いた。若き時より奈
良吉野の金峯山寺さんでの修行の
平成元年頃までをお話させて頂い

た。一時間半程の時間とはなった。
今後、二回、三回と続くものと思
えている。将来は一冊の本にまと
めてゆければの気持ちもある。今
日は信者の皆さんと共に信仰の稔
り多き一日を過ごさせて頂いた。
三月下旬頃より咲きだした「カ
タクリ」の可憐な花が山野草公園
を彩り、大勢の人たちが訪れてい
る。開祖様の廻りとも語られし白
いカタクリの花が此の年も一輪花
を咲かせてくれた。

十三日には千本桜が満開となつ
た。その見事さに、しばし見とれ
佇む。うぐいすのホーホケキョの
鳴き声も千本桜の花を愛でている
ようだ。ソメイヨシノの桜花が散



辞

り路面一面が桜花の美しい絨毯と
化する。今は、山桜が楽しませて
くれている。ご信者の力でこの御
山も、御社も市民の憩いの杜とな
った。信仰的には、「心願の叶う
お山」として御神徳の高揚をみる
ものである。

四月十四日に、北海道千歳市立
向陽台中学校の修学旅行の課外学
習会にて四名の女子生徒が来山さ
れた。宮司の嗣親と熊川君が対応
一時間程お話をしたとか。東照
宮、大崎八幡宮をお詣りし大國神
社へ参られた様だ。インターネッ
トで仙台市の神社で検索して当社
に決めたという。これも奇しびな
る大神のみちびきであろうと。最

近、このようなご縁での参拝者が
数多くなってきたようである。

私は、神変御下駄の霊威靈顯の
蒙られることを密やかに願ってい
る。心願の叶う御山として、御社
として、全国津々浦々より参詣が
なされ、神変御下駄の祈願、また、
お百度を踏みでの願いの叶えられ
る幸せの姿を描描している。三月
の地震被害の修繕工事も始めねば
ない。信者のみなさんには誠に心
苦しい限りではあるが、重ね重ね
のお力添えを願わねばない。

四月二十三日、午前十一時より
七柱の永代奉斎の儀式を斎行す。
深き祈りとはなん。

午後一時三十分頃に、大本様の
責任役員の山田歌先生と、東京宣
教センター長の橋本伸作先生が来
山される。出口紅教主様の御命を
受けて、私共大國神社の地震被害
のお見舞いにわざわざ京都より、
また、東京よりご遠路お越し下さ
れた。出口教主様の勿体なきおこ
ろに手を合わせばかりであった。
御見舞とお土産などご持参下され
また二十日には御神苑で収穫せし
立派な筍のご恵贈も賜った。有り
難き極みであった。

正式参拝をなされ、しばし歓談
聖師出口王仁三郎先生の在りし日
のお話しをお聞かせ頂いた。嗣親
も総長も何かを感じたようである。
楽しい意義ある一時を頂いた。何
れの日にか御礼に伺わねばないも
のと。

今日の二十四日は、春の大祭を
控えての清掃奉仕の日である。四
十名余にての奉仕という。夫々が
積徳の善行となるを祈るものであ
る。

令和四年四月二十四日

教主 禮日公

大國神社例大祭



斎主嗣親様による祝詞奏上



玉串を奉奠なされる教主様、教母様

篤信者等二百名余の参列者のもと儀式が斎行された。
海川山野の句の神饌が、御本殿内に丁重に献供され、此度の斎主は嗣親様がお仕えなされた。
開祭に先立ち本教顧問・参議院議員和田政宗先生よりご挨拶を頂き、修祓の後、斎主嗣親様が昇殿、世界平和萬民幸福祈念詞を唱え祝詞を奏上、コロナ災禍早期収束とロシアによるウクライナ侵攻の即時撤退をも祈念なされた。
斎主嗣親様玉串奉奠、参列者玉串奉奠が行われ、祝電披露の後、本教相談役宮城県議員の石川光次郎先生と同じく福井崇正先生よりご挨拶を頂いた。



ご挨拶をされる嗣親様

結びの斎主嗣親様のご挨拶では、ご参列の方々への感謝のことばを述べられ大和の御教えを説く中で、世界平和、国家護持をしつかりと持つて宗教活動に励まれることを述べられ、祭儀は滞りなく結ばれた。

修験道開祖 神変大神祈念 神変神社例祭

令和四年四月十日午前九時より、神変神社において神変神社例祭が斎行された。

今春は低温が続いたこともあり桜の咲きがやや遅く、神変神社境内にある桜は未だ蕾の中での儀式となった。
好天の中、祭儀は執行され修祓の後、畠山真由美教務部長が斎主をお仕えされた。

また御下駄祈念は品川弓神事部次長が、火祭祈願は熊川知長祭儀部次長が夫々奉仕した。

綾瓊神歌にて、鬼神をお称え申し上げ、祝詞を奏上、大祓詞、六根清浄大祓詞、十種神宝詞が奉唱され、斎主玉串奉奠、参列者玉串奉奠をもって修祭となった。
参列者は神変大神、前鬼後鬼大神様に日頃の神恩報賽の真心をお捧げ申し上げ、更にご守護をお祈り申し上げた。



斎主畠山真由美教務部長による祝詞奏上



神変御下駄一体ずつに祈念を申し上げる



火祭祈願・御神火が昇龍の如く立ち昇る

大本様より地震被災 御見舞いを賜わる

四月二十三日の午後一時三十分、大本様の責任役員・総務部長の山田歌先生と東京宣教センター長の橋本伸作先生が大山山へ来山なされた。出口紅教主様の御命を受けられ、三月十六日の地震による被災のお見舞いのため、京都府亀岡市と東京よ

りご遠路ご参拝を下された。
到着後、先ず御本殿にて正式参拝が修められ、玉串奉奠をなされた後、特別室にて教主様をはじめ、嗣親様、平松総長としばし親しく歓談をなされた。



御本殿廣前にて記念撮影

聖師出口王仁三郎先生の在りし日のお話し等をお聞かせ下され、一同大変意義のある楽しいひと時を過ごさせて頂いた。
此度の大本様よりの勿体なきご芳志に、衷心より感謝を申し上げる次第です。

皆様のおこころに感謝と御礼を申し上げます

大國神社例大祭奉賛者御芳名

金貳萬圓 大和コウケン株式会社
金壹萬圓 佐藤 利孝 安達 菊雄
川上 賢一 斎藤 秀政 遠藤 浩由
横尾 兼剛 金ヶ瀬 正子 針生 宏
安附 仁 川村 ヨシ子 庄内 分
三陸 分祠 畠山 真由美 本田 勲
金伍仟圓 八嶋 はな子 阿部 良子
森 裕美 作間 由枝
随 意 増澤 親一 平松 千明
齋藤 正美 熊谷 健嗣 渡部 恵子
竹本 梯子 八嶋 健嗣 渡部 恵子

菊地 正浩 菊池 真知子 内馬場 久
工藤 珠美 佐藤 央子 佐藤 裕子
大平 良子 熊谷 由美子 匿名 者
神恩感謝料奉納者御芳名
金拾萬圓 秋田グループ一同

幣帛料奉納者御芳名
金貳萬圓 斎藤 斤子 相双分祠
金壹萬圓 庄内分祠
金伍仟圓 三陸分祠

奉納品奉納者御芳名
食 材 及川 清隆 中村 徳治
稲見 明
奉納米 畑中 幸男 川村 ヨシ子
(五月六日迄分・敬称略・順不同)

6月行事予定表

6月1日 月始祈願祭
6月5日 神光龍神祭
6月11日 親神感謝祭
6月12日 教主様御誕生奉告祭
6月15日 月次祭・神子祈願祭
6月24日 大和地蔵霊祭
御神像境内社御清之儀
還幸祭・神在祭
6月25日 開祖祭
6月26日 祝祓祭前日祭
6月28日 祝祓祭本祭
夏越の大祓・鎮火祭
古神札焼納祭
6月30日 金剛蔵王大権現年祭
夏越の大祓

7月行事予定表

7月1日 月始祈願祭
7月5日 神光龍神祭
7月11日 親神感謝祭
7月15日 三山登拝道中安全祈願祭
三山萬人講役員会
月次祭・神子祈願祭
大和地蔵霊祭
7月23日 参詣登拝出立(二日班)
7月25日 参詣登拝出立
7月28日 参詣登拝出立
7月30日 参詣登拝出立(月山直)

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和開教祭並記念式典

四月十日の午前十時三十分より、神変神社例祭に引き続き、開教祈禱殿において、大和開教祭並びに開教記念式典、引き続き教主様による特別講演が執り行われた。

開教祭は親神大和皇大神様、大和の神教をたて給いし開教神大國主大神様への神恩感謝の真心をお捧げ申し上げる祭儀である。

儀式は齋主熊川知長祭儀部次長のもと綾瓊神歌の奉称を以て神々をお称え申上げ、開教祭詞が厳かに奏上された。

齋主玉串拝礼の後、教主様と教母様が玉串を奉奠なされ、総裁家、ご来賓、参列者が順に玉串を捧げられて、祭儀は申し修められた。

儀式後の開教記念式典では先ず教師階位證の授与式が行われ、教主様より、会津若松教会所属の秦チエ子さんと、上山遥拝所所属の内村行雄さんに大講義職、会津若松教会所属の本田麻里子さんとタイワトラベル福原祐さん、内海政良さんに権訓導職の階位證が夫々に授与された。



齋主熊川祭儀部次長により神恩感謝の祝詞が奏じられた

教主様特別記念講演

本日(四月十日)は素晴らしい天候の中で神変様のお祭りが修められました。この御山を授け下されたのは神変様と云われております。「仙台市内の西北にこのような御山が有りますよ。」とお授けを下されました。本日の演題は、「我が奇しきなる信仰の奇蹟」と題しました。私は本年六月で数え七十八歳となります。信者さんの心の中、教職員的心にも少しく、私とい



教主様より教師階位が授けられた

う人間がどんな生き様をなしてきたのかをお話しをしたいと思います。私は塩釜市で生まれました。父と母が大和教を開いておりました。塩釜で父のもとで小学生まで生活しており、成績優秀で神童と言われておりました。(笑)父は私が小学校を卒業する折には、当時の校長、教頭、六年間の担任の先生方全員をご招待申し上げ私の祝い会をして頂き、先生方々が万年筆等プレゼントを頂きました。父は常々、「勉強は学校でするもので家ではするな、家では家の手伝いを為せ。」と。



御親教を垂れられる教主様

は起きないと間に合いませんでした。自分の事は全て自分でせよと父は厳しく育ててくれました。今、それが大きく生きています。開教祭は、父と母が仙台北の母親である開祖様のもとへ参りました。仙台北へ来たものの母親と一緒の生活はありませんでした。私が通っていた上杉中は仙台北でも有名な進学校でした。私も最初は十番以内に入っており、結果志望校を落ちてしまいました。そこで当時新設三年の東北学院榴岡高等学校へ入学を致しました。学年三番で入ったと聞きました。

開祖様は、「もしも、あなたが東京の大学へ行きたいのなら行っても良い。」と。私は当時は神様のことは全く関心がなく、早稲田大学の商学部、明治大学の商学部、そしてなぜか、明治大学の法学部も受けました。そこで私は初めて、神様に祈願を致しました。「明治大学の法学部に合格したら、教団のためにも働きます。」と。そうして、明治大学の法学部に合格致しました。開祖様が古い拝殿の方から、「受かった。受かった。」と大変に喜ばれて、小走りで行って来て、今でも鮮明に覚えています。それが私が神様から授かった最初の奇蹟です。そして、卒業して教団へ参りました。教団に奉職すると先ず長男の克信氏から事業部として煙草の小売りに行って来いと言われました。利益も無いのに私の知り合いの飲食店に行き置かせて頂きました。三回も行くことになりました。お客さんから呼び名が煙草屋さんになりました。腹も立ちました。次は三山登拝事業をやりなさいと言ったので、昔やってた人にお願いをして色々教えて頂きました。しばらくして開祖様の助言でミズ御光という旅行会社を設立致しました。

タイワトラベルの前身で旅行業取引主任資格も取りました。その頃私は開祖様に、「拝んで下さい。」とお願いをした事があります。開祖様は、「私はあなたの事は拝みません。どうして神様に聞きたい事があるなら御神像にお訊ね下さい。思いが叶うなら軽く、叶わないなら重くなる。」と申され、夢中で行いました。それが私の霊能力開発の始まりとなりました。また若い頃、百日間の謹慎で本庁から御山へ歩いて行く修行を致しました。寒い冬の朝一時間からでしたが、五十日程経った頃から腰痛が悪化し動くことができない状態になりました。そんな中、開祖様は朝三時頃に立ち寄られ、私のことを拝んで下さるわけです。有り難く涙がこぼれました。そして、「苦しいだろう。だけどお前より苦しい人々がこの世の中には大勢いる。自分よりも苦しい人を助けて下さいと拝みなさい。それから自分の事を拝むのです。」とお諭しを下されました。これが現在の平和祈念の根元です。私は入院し、病室で教団部長から頂いた資料を夢中になって読み、入院先でも御神像を持参してもらい御神託をしながらまとめ上げ、羽黒近くの湯治場に一月間籠って四冊の教本を完成をさせました。その後、迎賓館が出来、開祖様が拝んでいたところ突然、「お前の事は私が導くから、神様の事をやりなさい。」と申す訳です。敬一郎爺さんでした。開祖様から、「秀信さん、あなたは神様と約束をしている事があるのでは。」と言われ、神様との約束はそんな甘いものではないと、釘を刺されました。大学受験の時の事でした。そして、「私が元気なうちにあなたが勉強したい所があれば行ってきなさい。」と言われ、最初に運命学を勧められ、東京易占学校へ電話をしました。電話に出られたのが文屋圭雲先生という女性の方で、その方に習い、教団との縁もすっかりと

結んで頂きました。文屋先生は後に日本易学連合会の初の女性会長とされました。次に雲大社様に参りました。旧暦の十月十日には稲佐の浜で神迎祭という神様をお迎えする神事があり、一ヶ月間、竹野屋さんに宿泊し行を致しました。初日は何千人と参列し、次の日からの神在祭は私だけが毎日参列しました。すると国造様が私の名前を覚えて下さり、最後に神様を御還しする神等退出(からさで)祭に、「あなたがと大和教団の保積先生ですか。ご苦労様でした。」とお声を掛けて頂きました。それが出雲大社様との関わりとなりました。金峯山寺様にも参りました。吉野の神変様のところへ詣るために宿を探し、東南院さんに宿泊することになりました。後にそこが金峯山寺様の管長先生の坊であることを知る訳です。山深い神社で末明に行を執っておりまして、東南院さんの奥様から、「こちらでも神様をお祀りしておりますよ。」と言われ、その後は東南院さんで行を執らせて頂くこととなり、その翌年に蔵王堂ともご縁を頂き奥様から、「今度、蔵王堂の落慶法要が行われるので来てみませんか。」とお誘いを頂きました。毎年、五條順教管長先生の護摩の火災を拝見し、私もいつかこういう火を焚きたいものと思ひ、「私は他宗教の者ですが、金峯山寺様の護摩を修行させては頂けないでしょうか。」とお願いを申し上げたところ、「考えてみましょう。」とだけ申されました。翌年に参らせて頂くと、「保積先生は教団の人ですから、一年も二年もは修行は出来ないでしょう。これを差し上げますから、自身で修行をして下さい。」とお経のテープをお授け致しました。お経が拝めないで修行になりませんから一年間勉強して下さい。それから、数年経て平成元年五月に修行のお許しが下されました。

「保積先生は生涯二度とないでしょうから剃髪されてはどうですか。」と言われ初めて頭髪を剃りました。出立の朝、開祖様にご挨拶に行くところ、「私の顔を見て吹き出して笑っておられました。独り現地へ着いたところ、「保積先生お独りですか。生き死ににお別れなのですが。そういう行ですから。うちの修行者は、家族とか教会とかの人等が皆で来るのですよ。」と。また、「朝は井戸へ降りて水を汲んで下さい。午前三時の起床で間に合うでしょう。」と申されました。護摩木割り等全一人でやらないと行が執れず、どんな睡眠時間が詰まり腰も悪化し、このままでは教団の看板に泥を塗るという切羽詰まった思いでした。護摩木を割って紙縫りで束ねるのに紙の紐をつくるのが出来ず、苛つき寝ることも出来ずとなりました。すると夢枕に父親が立ち、煙草を吸ってキセルを掃除するのですが、紙縫りを作る姿を私に見せたのです。飛び起きてやってみたらとても簡単に出来たのです。お父さん有難うございましたと涙乍らに感謝を申し上げておりました。父は私の修行のを見ていて下さいました。あなたの方の先祖様もいつも見ていて下されるという事です。いつのまにか腰の痛みも和らぎ、五体投地も不自由なく出来るようになりました。神変様から御力を頂いているを実感出来ました。

お救い下さい。」とお励ましを下さりました。寢床の上で開祖様にお陰様で無事に終わりましたと感謝を申し上げ、翌日、早速、開祖様のもとに参ると、「あなたはもう昨日来ていたよ。」と。私が脱魂し開祖様の元へ飛んでいた様です。感謝した途端、開祖様はそれを感じていたという不思議な事も金峯山寺様の行で体感致しました。父親が心配して助けて下さり、母の大きな愛情で修行が完遂出来ました。行ほど尊いものはない。」と大和は説いておりました。さて、開祖様は三度裸一貫になつたと申します。岩手の綾里で津波が来て修行道具、貴重資料も何もかも無くし、塩釜から仙台へ来た時も何もございませんでした。私も同じように地震や津波で大変な試練を蒙りましたが、必ず救われて参りました。

大和の教信奉者は 五人善導の奉謝行を 実践致します。

祈りは目に見えない神霊、神様やご先祖様と連なる架け橋です。その祈りの響きが弱ければ届きません。全ては波動、響きです。祈りは奇蹟を起こします。大和の祈りには真の力が宿ります。私たち信仰者は神様という畏くも畏き存在を正しく知ることです。

菅場宮子先生という開祖様にお仕えた教師がいました。私が高校生頃、この様な霊示を見せられた。筆筒にある開祖様の装束を受け取るか否かの場面で菅場先生が申されたのは、「六人兄弟妹の中で誰も受け取らずに、秀信さんだけが筆筒を開けて、格衣のようなものを持っていました。」と。「私はその霊示を受けた時から、秀信さんが将来教団を継承される人だと思っていました。」と教えて頂きました。「だから私は兄弟妹が皆去つた後も、最後まで教団に残ってお勤めしてきまし

た。」と。本当に有り難いことでした。私は不思議と開祖様に言われた事は何でも「はい」と従い、ひたすらお仕えて参りました。私の修行は全て、祖父の敬一郎様が導いて下されました。開祖様に伝えられた、「トホカミエミタメ」この神言だけは、何が有っても唱えるようにとの教えは今もしっかりと受け継がれております。

修行世界の中で、大和教団の身分を明かすと中々に門戸を開いてはくれませんでした。唯一金峯山寺様だけが受け入れて下さいました。見える顕教と見えない密教があり、両方を修得しないと加減なものになつてしまつた。法は正しく学び、正しく行うことを教えられました。後に柳澤眞悟先生という昭和で初めて大峰山の千日回峰行を成満なされた方が私にこう漏らしました。「保積先生を修行に迎えることを、宗務会で管長先生が自ら提言なされました。仙台大和教団に保積秀信という方がおりお母様は大変に立派なお方です。保積さんを護摩加行に受け入れたいと思つていますと申され、迎えて下さったのです。保積先生のために千三百年の金峯山寺の法を管長先生は破られました。」と。そう教えて頂きました。本当に有り難い事です。自ら道を求める心、神様、大和を知りたいという心があればこそこの尊い修行をさせて頂きました。

それではこれから少し教を説かせて頂きます。皆さんいきるちえの信仰の章百十六頁を開いて下さい。開祖様、神様の教えが掲載されております。第一之〇〇一言、「己れ的心をつくること、これ信仰なり。」これが大和教団の根幹です。何々の因縁を解決して終わりではありません。信仰のはじまりの縁となるだけです。第一之〇〇三言、「信仰とは理屈ではない。なにも難しいものではない。ただ神様を信じること、これが信仰である。」理屈ではなく、信じるか信じられないかだけなので。神様も霊魂も常にご覧になつております。しっかりと信じて下さい。第一之〇二二言、「神様への感謝、万物への感謝、親兄弟姉妹への感謝その感謝の気持ちを養うことが本当の心の教育であり、信仰の根本となる。」信仰の根本は感謝を養うのです。自分を豊かにすれば神霊に通じ必ず力をお与え下さいます。開祖様が明日にも弟子に食べさせる米が無いつても何遍も経験し、その都度、本庁の松の木の下で夜通し祈り仕えると、不思議にお米やお金を持つて来てくれる人が現われ、助けられました。第一之〇三五言、「人間の欲得のためだけに神様はお働きにはならない。」世の多くの人は、自分だけ良ければ良いとの思い、これでは絶対に救われません。第一之〇三九言、「神様から与えられた智慧と力は、勇気と信念をもって努力する実行が必要である。」勇気がなければ信念は持てません。大和では信仰は自分が生きていくための尊い仕事と説いております。食べていくための世の仕事を支えてくれるのです。根源の力が信仰です。故に信仰は人生の一番大切な仕事と大和は説いております。第一之〇四四言、「祈りとは、神様の智慧と力を頂くための心のあり方をつくる大切なものである。」心のあり方は感謝です。神様を信じただけで有り難いと思うかです。あらゆる物への感謝、行を通して全てに愛情を持つ事です。私も初めて皮膚の病に罹り、体が薬でべたべたして不満だらけでした。でも自分の身体を一番守ろうとしていたのは、この皮膚、五臓六腑、この身体です。下着もそう。毎日頑張つてく

れていると気付かせて頂きました。第一之〇四七言、「己れのことだけを考え、己れのことだけを主張して神々に願いが通じると思ふな。」他人様の幸せを祈ることです。第一之〇五一言、「善い言葉を言えば善い結果を招き、悪い言葉を言えば悪い結果を招くのが祝詞である。」これ以上ない尊い言葉が神拝詞です。しっかりと唱えて読み込んで、そして考えて日常に生かして下さい。母なる開祖様が今迄ずっと護つて来て下さりました。父も祖父も「必ず守るから神様に仕えなさい。」と導いてくれました。人は嘘をつきますが、神仏は嘘をつきません。ですから信じること、縋つて祈ることです。心は自由自在です。

また、更に神変様のお使いの神が顕れました。相双分祠の田淵好子さんが白蛇の夢を見たというので、拜んでみたら神変様のお使いの白蛇でした。何年か前にも参拝者が門柱の辺りで白蛇を見ております。その方は縁起が良いと言つて大國神社で息子さんの結婚式を致しました。田淵さんがそうした夢を見せられ、直ぐにお祈りをさせて頂きました。神変(じんぺん)白蛇(はくじや)神とお称え申し上げさせて頂きました。守つて下さる神様は多いほど有難い訳です。

皆さんもこの世でもっと楽しく生きる為に信仰的の力を付けて、あの世へ旅立ち守り神になつて頂きたい世の中を守れるだけの霊魂となつての旅立ちです。自分の心に善と悪の心が生きている限り、それが善い方へ行くか悪い方へ行くか、祈りの力でまとめなくてはなりません。祈りは破壊しなくてはなりません。祈りで取り除き、善いものを創つていくのです。宇宙真理は創造と破壊です。幸せを迎えるも不幸せを迎えるも心次第。心によつて果てしない大きな力が授けられます。それを善い方に創造する力が大和の祈りです。それが出来るのが大和の信仰力です。大和の祈りは、素晴らしい奇蹟の祈りです。本日はご苦労様でした。

祈りと感謝と奉仕の実践 春の清掃奉仕



尊きご奉仕を下された方々

四月二十四日午前九時より、大國神社において、春の清掃奉仕が行われ、心篤き信奉者の皆様が尊い汗を流されて、大神様への感謝の誠をお捧げ申し上げた。

ご奉仕下されました皆様のお心に感謝申し上げます

清掃奉仕者御芳名

竹本 梯子 八嶋 健嗣 渡部 きよ
横山 満也 横山 静江 横山 真由美
伊藤 政代 内海 宏幸 阿部 安子
阿部 容子 本林 和江 本林 瑛恵
本林 秀尚 木幡 安典 本林 和朗
本田 國子 本田 通 鈴木 絵美
及川 ちさと 三浦 あやめ 佐々木 映子
俵 俊三 安達 美紀 安達 しげ子
福原 祐 内海 政良 鷺尾 雅子
(順不同・敬称略)